

未来医療研究人材養成拠点形成事業 申請書

申請担当大学名 (連携大学名)	三重大学		
テーマ	テーマB	申請区分	単独事業
事業名 (全角20字以内)	三重地域総合診療網の全国・世界発信		

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵1枚)を【様式2】の後ろに添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

<p>〈テーマに関する課題〉</p> <p>地域住民の立場に立って医療・保健・福祉(在宅)を提供できる、そのために多職種と協働できる、そしてその根拠や地域の問題を明らかにできるアカデミックな能力ももった人材を育成するために三重地域総合診療ネットワークを構築する。それによって、地域に役立つ総合診療医とその指導医を養成する。そのような人材を、三重県のみならず、全国、そして全世界に派遣する。</p>
<p>〈事業の概要〉</p> <p>① 三重県全地域に地域医療学講座を設立して、総合診療医を効果的に育成</p> <p>② 良質な総合診療医を育成する指導医を育成(「アカデミックGPコース」)、その医師を全国へ派遣</p> <p>③ チーム医療の要となるため、卒前教育から卒後臨床研修で多職種連携教育カリキュラムを構築(「多職種協働のチーム医療プログラム」)</p> <p>④ 地域住民のニーズに合致する医療・保健・福祉、そして地域の問題などを明らかにする調査</p> <p>⑤ リサーチマインドを持った総合臨床医を育成するために全学そして他大学とともに公衆衛生大学院的な「総合診療医のためのPhDコース」を設置</p> <p>⑥ 女性医師が働ける、または家庭でも総合診療能力を維持できる環境を構築</p> <p>⑦ 海外の発展途上国などでも医療、保健や医学教育の支援ができる人材を育成(「海外総合診療医チャレンジコース」)、その人材派遣のための仕組みを構成</p>

②新規性・独創性

- ① 地域医療の教育・研修に積極的な三重県で、さらに地域医療学講座を医師不足地域を多く含む三重県全体に配置し、県全体で地域で役に立つ総合診療医を育成。
- ② 良質な指導医をコースでシステマティックに育成、その指導医を全国に派遣、さらに地域で活躍している医師（医師会員も含む）もITを用いて効果的な指導医として育成。
- ③ 多大学、多学科が協働、卒前、卒後をとおり、多職種が連携、チーム医療が行える人材育成。
- ④ 包括性、連携度、患者中心度、近接性などの医師の特性、また地域住民の心理社会的な要因などが住民の受療行動（時間外受診、救急車利用、入院、健診・検診率を含む）や在宅医療にどう影響するか明確化。必要性和実効性のある医療体制を把握。この結果に応じて、役立つ総合診療医を育成する。
上記の人材育成や調査研究を県市町の行政や県・郡市区の医師会と連携をとって効果的に実施。
- ⑤ 三重大学内の複数学部学科や多大学多学科が協働して、「総合診療医のためのPhDコース」を設立、エビデンスを明らかにするマインドをもった総合診療医を育成するシステムを構築。
- ⑥ 女性総合診療医・指導医の活動のため保育所の整備、ITを用いた教育研修環境を構築。
- ⑦ 半数が海外実習（アフリカ、東南アジアを含む）へ行く三重大学学生の特性も生かし、総合診療医として海外への派遣、また、それを可能にする受け皿としてネットワークを使用。

③達成目標・評価指標

- ① 地域住民のニーズに応じて、包括ケア的、全人的、連携強化的なプライマリ・ケア機能（在宅医療、緩和医療を含む）を発揮できる総合診療医を地域医療学講座をとおして全県的に育成
- ② 多地域医療機関において総合診療医の指導者を最大限に育成、指導医を全国に発信、また、ITを用いて地域の臨床医も、指導医として育成
- ③ 多大学、多学科と協働、各々の多職種人材育成を同時に行い、チーム医療教育体制を構築
- ④ 多学科と地域医療学と協働し、地域住民のニーズに合致する医療・保健・福祉を全国的に調査し、育成される総合診療医像を明確化
- ⑤ 公衆衛生大学院的な「総合診療医のためのPhDコース」を構築、リサーチマインドを持った総合診療医を体系的に多数育成
- ⑥ 女性医師が働ける、または総合診療能力を維持できる環境を構築
- ⑦ 育成した総合診療医を海外（途上国を含む）に派遣、また医療保健や医学教育で支援できる能力を具備

④医学生・男女医師のキャリア教育・キャリア形成支援

- ①, ② 地域医療学講座は卒後研修とともに卒前教育にも関与。1, 2年生：早期体験実習、4, 5, 6年：臨床実習。熱い総合診療指導医の態度に接し、将来、地域で役に立つ総合診療医になる情熱を沸かせる。
- ③ 医学生は他大学、他学部の学生とともにチーム医療を学ぶ機会を提供。
- ④, ⑤ 地域24時間病児保育対応型保育所など、女性医師の働きやすい環境づくり、IT利用で産休や育休期間も総合診療の臨床、教育、研究などの事業に参加可能に。男性医師も自宅で会議参加可能。PhDコースは、女性が参加しやすい。
- ⑦ 海外への保健、医療、医学教育支援は帰国後の処遇の問題があり、派遣が困難。それをネットワークで可能にし、海外志向者も多い（三重大若手）総合診療医のキャリアの幅を広げ、ニーズに対応。

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の実施体制

- ① 現在ある三重大学医学部の津、亀山、伊賀地域医療学講座、地域包括ケア・老年医学講座に加え、新たに北部に四日市社会保険病院（総合診療医育成が設立目的）、三重県最南の公立紀南病院に地域医療学講座を設立。各講座に准教授×1名、助教×1名。
- ② 良質な総合診療医を育成できる指導医、さらに指導医を養成できる指導者（現在、三重大学にはそのような指導医が10名以上存在。また追加可能）。教育・研修に必要な施設（学生宿泊施設、カンファレンス室）・備品（テレビ会議システム、医療面接録画機等）。地域の臨床医を総合診療医の指導医にするためにケアネット等と協働でシステム構築。医師会会員に生涯教育の提供。
- ③ 多職種連携教育カリキュラムの構築のため、三重大看護学科、鈴鹿医療科学大薬学部、理学療法学科、医療栄養学科、看護学部、皇學館大現代日本社会学部また三重県立看護大看護学科が協働。
- ④ 地域住民のニーズ調査は、三重大家庭医療学・総合診療科、公衆衛生学、疫学センター、人文学部法律経済学科、三重短期大、さらに地域医療学講座が置かれる市町が協働。医師の調査は、三重県在宅医療推進委員会と三重県・郡市区医師会、および三重県健康福祉部と協働。
- ⑤ 総合診療の研究は、三重大家庭医療学・総合診療科、公衆衛生学、疫学センター、教育学部（心理学）、人文学部が協働。このプログラムでは、多職種連携の研究のため、鈴鹿医療科学大、皇學館大現代日本社会学部も参加する。場所は、主として三重大学。
- ⑥ 保育施設は地域医療学のバックとなる行政の支援を得て整備する。また、女性医師の（または女性医師が働きやすい環境を作るための男性医師の）支援のためのテレビ会議システム。サーバーは三重大学に設置。
- ⑦ 海外との調整は、JICA関連コンサルタント、また、三重大の持つアフリカ（タンザニア、ザンビア、ガーナ等）、東南アジア（ラオス、ミャンマー等）との連携。海外支援バックアップはネットワークによる。また、研修のための上海ファミリークリニック（給与有、診察可）、米国での家庭医療研修（条件有）、発展途上国での活動のため豪州フリンダース大、英国カーディフ大、タイのマヒドン大などと連携、医学教育や感染症を含む熱帯医学の付加的研修の機会。

(2) 連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

連携体制	役割	メリット
① 三重県各地の地域医療学講座		
四日市社会保険病院	三重大学寄附講座の運営、資金提供	良質な医師確保
公立紀南病院	三重大学寄附講座の運営	
紀宝町など	寄附講座設立の企画、資金提供	
② 良質な総合診療医を育成できる指導医の育成(アカデミックGPコース)と全国への発信		
県立一志病院	テレビ会議システムを通して指導	人材共有の可能性
名張市立病院		
亀山市立医療センター		
高茶屋診療所		
津FC		
ケア・ネット	地域医師へ指導医養成講座配信（安価で提供）	将来の視聴者の開拓
日本医事新報社	地域医師への指導医養成講座のための出版（無料）	企画獲得。読者の拡大
三重県・郡市区医師会	会員に地域医療の指導医ツールを配布	生涯教育。医療再生
③ 多職種連携教育カリキュラムの構築(「多職種協働のチーム医療プログラム」)		
三重大看護学科	多職種連携教育カリキュラムの構築への参画・運営	当該学科等の多職種連携教育にも資する
鈴鹿医療科学大		
皇學館大		
三重県看大・看護学科		

④ 地域住民のニーズに合致する医療・保健・福祉を明らかにする調査		
三重大・人文学部	地域住民のニーズに合致する福祉を明らかにする調査の企画・運営	当該学部・センター等の研究分野に一致し、研究のさらなる発展。
三重大・公衆衛生学		
三重大疫学センター		
三重短期大		
三重県・郡市区医師会	医師の調査への参画	在宅医療の基礎調査
三重県健康福祉部		
⑤ 公衆衛生大学院的な「総合診療医のためのPhDコース」		
三重大・公衆衛生学	「総合診療医のためのMPH（公衆衛生大学院）コース」を企画・運営	当該学部・センター等の研究者育成及び研究のさらなる発展。
三重大疫学センター		
三重大・教育学部		
三重大・人文学部		
鈴鹿医療科学大		
皇學館大		
⑥ 女性医師が働ける、または総合診療能力を維持できる環境の構築		
四日市市役所	医療関係者のための保育施設確保	当該地域の医療従事者獲得
紀宝町役場		
⑦ 海外の発展途上国などへの保健、医療や教育の支援(海外総合診療チャレンジコース)		
上海FC	他国の地域医療研修機会の提供（診療可能、給与あり）	当該地域の医師確保
浦南医院（上海）		
フリンダース大	同地域での地域医療学や医学教育の研修を提供（学部間協定あり）	教育・研究のさらなる発展の機会
カーディフ大		
コンケン大学	熱帯医学の研修を提供（学部間協定あり）	
マヒドン大学	熱帯医学の研修を提供（学部間協定締結予定）	
JICA関連コンサルタント	派遣先の紹介と調整	JICA事業の調整に対する報酬

(3) 事業の評価体制

① <u>地域医療学講座</u>
講座で教育を受けた学生数、初期研修医数、後期研修医数。研修後の指導医数（県内、県外）。
② <u>良質な総合診療医を育成できる指導医の育成（「アカデミックGPコース」）と地域での指導医育成</u>
養成した指導医数（コース経由）、指導医数（ケアネット経由）。県外から導入指導医数。県内派遣指導医数、県外派遣指導医数。全国大学で教員となった医師数。
③ <u>多職種連携教育カリキュラム（「多職種協働のチーム医療プログラム」）の構築</u>
卒前医学教育：ポートフォリオ（第1、2学年）、360度評価（第4～6学年）、卒業時OSCE。卒後臨床研修：ポートフォリオ、360度評価、及びこの事業のプロダクトとして構築された多職種連携の評価方法。他学部での評価も同様に実施。
④ <u>地域住民のニーズに合致する医療・保健・福祉を明らかにする調査</u>
住民調査と医師調査の報告書。また、この報告書に基づいて育成された総合診療医の活動が、地域住民の受療行動（時間外受診、救急車利用、入院患者数、健診・検診受診率、在宅医療利用率）への影響を評価。
⑤ <u>リサーチマインドを持った総合診療医育成（「総合診療医のためのPhDコース」）</u>
コース参加者数。参加者の業績（著書、論文、発表、その他）。
⑥ <u>女性医師が働ける、または総合診療能力を維持できる環境構築</u>
地域総合診療ネットワーク内の女性総合診療医数の変化。（可能な範囲で）プログラム内既婚者数、子供数。
⑦ <u>海外の発展途上国などへの医療や教育の支援（「海外総合診療医チャレンジコース」）</u>
海外派遣医師数、うち発展途上国派遣医師数。教育、熱帯医学などの研修受講医師数。

(4) 事業実施計画

25年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 紀南地域医療学講座設立のための教員採用と施設設備の購入 ② インターネットによる指導医（地域型）育成のための技術導入 ③ 多職種連携力向上のための卒前教育卒後研修を実施 ④ 地域住民のニーズに合致する医療・保健・福祉を明らかにするための調査の開始 ⑤ 「総合診療医のためのP h Dコース」開催のための器具購入と講師の招聘 ⑥ 女性医師の働ける環境構築または能力維持のための施設構築 ⑦ 海外発展途上国への保健・医療や教育の支援のための調整に係る旅費や教育に係る旅費
26年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 四日市地域医療学講座設立のための教員採用と施設設備の導入。紀南地域医療学講座の運営のための人材雇用と教育研究に必要な旅費、ネットワーク維持費など ③～⑦ 同上
27年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 両地域医療学講座の運営のための人材雇用と教育研究に必要な旅費、ネットワーク維持費 ③～⑦ 同上
28年度	27年度に同じ
29年度	27年度に同じ

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大（家庭医療学・総合診療科、地域医療学講座）						
プログラム・コース名	アカデミックGPコース						
対象者	主として総合診療専門医（専門医取得後の医師）、または同等の能力を持つ臨床医。または「総合診療医のためのPhDコース」参加者						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	総合診療医として診療能力（の最低限）は具備した医師で、卒前医学教育や卒後臨床研修において、さらに学生、初期研修医、後期研修医に総合診療の知識、技能、態度を教育・指導することができる医師						
修了要件・履修方法	卒前医学教育、卒後臨床研修（初期、後期）で教育、指導。2か月ごとに実施される講義（FMIM）を受講。形成的評価と4年目の最終評価を受ける。						
履修科目等	<p><必修科目></p> <ol style="list-style-type: none"> 卒前医学教育 early exposure教育（医療と社会）、「地域基盤型保健医療教育」教育法、研究室研究（家庭医療）指導法、基本的技能教育指導法、クリニカルクラクシップ（家庭医療）指導法 卒後臨床研修 初期研修指導法、家庭医療後期研修指導法 総合診療の教育指導に係る講義（FMIM） <p><選択科目></p> <ol style="list-style-type: none"> 「総合診療医のためのPhDコース」 フリンダース大学（豪州）、ダンディー大学（英国）での医学教育コース受講 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ol style="list-style-type: none"> 4年にわたり、システムティックに指導医養成を実施 卒後臨床研修のみならず、卒前医学教育も教育・指導ができる指導医を育成 総合診療の卒前教育、卒後研修の指導歴を持つ多数の指導医が指導 						
指導体制	<ol style="list-style-type: none"> 三重大家庭医療学・総合診療科の教員：5名 既存の三重大学医学部津地域医療学講座、伊賀地域医療学講座、亀山地域医療学講座、地域包括ケア・老年医学講座の教員：6名 津市、名張市、亀山市にいる三重大医学部の臨床教員：数十名 フリンダース大学やダンディー大学での医学教育関連の教員 						
受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	家庭医療専門医	0	5	5	5	5	20
	同等の臨床医	0	2	2	2	2	8
	計	0	7	7	7	7	28

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大（家庭医療学・総合診療科、地域医療学講座）						
プログラム・コース名	地域での総合診療指導医養成セミナー（インテンシブコース）						
対象者	地域で診療を行う臨床医で、総合診療の教育・研修にかかわる意志がある者						
修業年限（期間）	講義：1回1－2時間、合計8回。実習指導：1カ月。						
養成すべき人材像	総合診療医として診療能力（の最低限）は具備し、地域の病院や診療所で診療していて、卒前医学教育や卒後臨床研修において、学生、初期研修医、後期研修医に総合診療の知識、技能、態度を教育・指導することができる医師。三重県医師会の協力有。						
修了要件・履修方法	インターネットで配信されるすべての講義を受講し、インターネット上で試験を実施、これに合格した医師に実習指導を依頼して、その指導の場面をビデオで撮影、そのビデオを提出いただき、評価して、最終的な指導医として認める。なお、今後、第3者機関にて決められる総合診療専門医の指導医との整合性を取る必要がある。						
履修科目等	<必修科目> 1. 総合診療指導医の知識に関する講義（インターネット（ケアネット）による配信）：総合診療医概論、指導方法、フィードバック方法、ポートフォリオの使い方、など 2. 4～6年次生の実際の実習指導、初期研修医、後期研修医の実習指導 <選択科目> 1. 大学にて実施される総合診療の教育指導に係る講義（FMIM）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	1. 知識の講義は、ケアネット（インターネットによる生涯医療教育企業）との共同開発により、対象者は24時間受講可能。 2. 三重大学家庭医療学・総合診療科には、すでに資料の蓄積があり使用可能 3. 卒後臨床研修及び卒前医学教育も教育・指導ができる指導医を育成 4. 指導の知識のみならず、実際の教育指導方法を評価する。 5. 他都道府県への波及も容易にできる。						
指導体制	資料の作製、知識評価、そして実際の実習指導の評価は以下の体制で実施 1. 三重大学家庭医療学・総合診療科の教員：5名 2. 既存の三重大学医学部津地域医療学講座、伊賀地域医療学講座、亀山地域医療学講座、地域包括ケア・老年医学講座の教員、新設2講座：10名 3. 津市、名張市、亀山市にいる三重大医学部の臨床教員：数十名						
受入開始時期	平成26年4月（システム構築は平成25年度から）						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	講義	0	50	50	50	50	200
	実習	0	10	10	10	10	40
	計	0	60	60	60	60	240

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大（家庭医療学・総合診療科、看護学科）、鈴鹿医療科学大（薬学部、理学療法学科、看護学部など）、皇學館大（現代日本社会学部）、三重県立看護大
プログラム・コース名	多職種協働のチーム医療プログラム
対象者	医学部1～6年次生、初期研修医、後期研修医
修業年限（期間）	卒前医学教育：6年、初期研修：2年、後期研修3年 （最長で11年間で、効果的なチーム医療の実践ができるよう養成）
養成すべき人材像	総合診療医として多専門職連携を実施し、質の高い患者・住民ケアをチームとして提供できる人材。特に今後需要の増える在宅医療などで活躍できる地域の医療・介護・健康を支える多専門職連携を行うことができる総合診療医。
修了要件・履修方法	卒前医学教育、卒後臨床研修（初期、後期）で下記の教育、指導。 卒前医学教育、および初期研修では、主としてポートフォリオを使用した形成的評価。 後期研修医修了時に修了テスト。修了テストは知識および模擬ケースを用いて、知識、技術に関する多専門職連携能力を評価する。
履修科目等	<p><必修科目></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒前医学教育 医学科学生、看護学生、薬学部学生などが同じ実習施設などで同時に教育を受ける。 early exposure教育（医療と社会」、「地域基盤型保健医療教育」）、共通教育「医学概論」内の「多職種連携について」の授業、研究室研究（家庭医療）での「多職種連携に関する研究」、臨床系統講義「家庭医療」における「多職種連携」、クリニカルクラークシップ（家庭医療）「多職種連携教育を含めた地域医療実習」 2. 卒後臨床研修 初期研修：オリエンテーションでの多職種連携教育法、初期研修指導法、 後期研修：家庭医療後期研修指導法 <p><選択科目></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「総合診療医のためのPhDコース」（多職種連携に係る研究の講義と研究実習）
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種の学生が同時に同一施設で研修を実施 2. 様々な専門職がネットワークで結ばれ、互いを活用しあう機会が増えることで、専門職リソースの有効活用が可能 3. 最長11年にわたり、システマティックに多専門職種連携能力を持つ総合診療医養成を実施 4. 各学年、卒後年数に応じた多職種連携に関する知識、技能を段階的に指導 5. 総合診療科のほか、様々な大学、学部、学科の多数の教員、指導者が指導
指導体制	<ol style="list-style-type: none"> 1. 三重大家庭医療学・総合診療科の教員：5名 2. 三重大学医学部津地域医療学講座、伊賀地域医療学講座、亀山地域医療学講座、地域包括ケア・老年医学講座の教員：6名、新規講座：4名 3. 三重大看護学科、鈴鹿医療科学大薬学部・理学療法学科・医療栄養学科、看護学部、皇學館大現代日本社会学部、三重県立看護大の教員：30名 4. 三重県在住の三重大医学部臨床教員：数十名
受入開始時期	平成25年承認日ごろ

受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	医学生	30	90	90	90	90	390
	多職種学生	80	300	300	300	300	1,280
	初期研修医	0	20	20	30	30	100
	後期研修医	0	5	10	15	20	50
	計	110	415	420	435	440	1,820

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大（家庭医療学・総合診療科、地域包括ケア・老年医学講座、公衆衛生学、疫学センター、教育学部（心理学）、人文学部（法律経済学科））、鈴鹿医療科学大（薬学部、医療栄養学科、医療福祉学科）、皇學館大（現代日本社会学部）						
プログラム・コース名	総合診療のためのP h Dコース						
対象者	主として総合診療専門医（専門医取得後の医師）、または同等の能力を持つ臨床医。アカデミックG Pコース参加者。または、修士課程を終えたプライマリ・ケア分野で活動する多職種医療従事者						
修業年限（期間）	4年（可能であれば、2年間のマスターも構築）						
養成すべき人材像	総合診療医として診療能力（の最低限）は具備した医師、または同じ分野で活動する（修士課程を修了した）医療従事者で、研究実行に必要な知識、技能を身に付けて、今後、総合診療の分野のエビデンスを精力的に解明できる者						
修了要件・履修方法	三重大大学院医学博士課程の大学院生として開始。大学院セミナー（e-learning有）、および総合診療リサーチパワー強化セミナー（月1回）を受講。研究を実施、査読有の英文論文掲載が条件。年数回の形成的評価と4年目の学位審査を受ける。						
履修科目等	<必修科目> 1. 総合診療リサーチパワー強化セミナー（月1回） 2. 三重大大学院セミナー（e-learning有） 3. 鈴鹿医療科学大、皇學館大での多職種協働セミナー 4. 三重大研究実習（昼夜開講制による場合もあり） <選択科目> 1. フリンダース大学（豪州）、カーディフ大学（英国）等への海外留学 2. 鈴鹿医療科学大、皇學館大での研究実習						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	1. 4年にわたりシステムティックに研究能力を身に付けさせるカリキュラム 2. 総合診療分野での研究実施に適した内容 3. 総合診療リサーチパワー強化セミナーはすでに構築済み 4. 薬学、看護学、リハビリ、臨床福祉など、多職種の学生も受け入れ、学習における相互作用も期待 5. 家庭医療学のみならず、公衆衛生学、疫学、心理学、社会科学など、研究に必要な多分野の指導者がすべて指導 6. e-learningなど、ライフワークバランスを考慮した指導						
指導体制	1. 三重大家庭医療学・総合診療科・地域包括ケア・老年医学の教員：7名、三重大公衆衛生、疫学センターの教員：5名、三重大教育学部、人文学部の教員：6名 2. 鈴鹿医療科学大（薬学、医療栄養、医療福祉、看護、理学療法）、皇學館大現代日本社会学部の教員：約10名						
受入開始時期	平成25年10月（博士課程10月入学に合わせる）						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	家庭医療専門医等	1	2	3	3	3	12
	修士課程修了の コメディカル	0	2	2	2	2	8
	計	1	4	5	5	5	20

教育プログラム・コースの概要

大学名等	三重大（家庭医療学・総合診療科）
プログラム・コース名	海外総合診療医チャレンジコース
対象者	主として総合診療専門医（専門医取得後の医師）、または同等の能力を持つ臨床医、場合によっては後期研修医
修業年限（期間）	6か月～3年
養成すべき人材像	総合診療医として診療能力を習得した医師で、その総合診療能力を海外（発展途上国を含む）でも発揮できる人材、また、派遣国で必要とされる熱帯医学や医学教育の能力も付加された人材
修了要件・履修方法	発展途上国を含む海外で総合診療能力を基盤に保健、医療、医学教育を実施。また、派遣国で熱帯医学や医学教育などがさらに必要とされる場合は、該当する研修・コースをさらに付加研修。評価は主としてポートフォリオによる。
履修科目等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 派遣前教育 <ol style="list-style-type: none"> (1) 元外務省医務官医師（三重大家庭医療学・総合診療科関連）による教育 (2) 三重大学医学部専任の医学英語教育担当外国人による医学英語教育 2. 海外での活動 <ol style="list-style-type: none"> (1) JICAからの要請のある派遣国、または三重大学との連携国（タンザニア、ザンビア、ガーナ、タイ、ラオス、ミャンマー等。学部間協定のある大学有）で、保健、医療、医学教育などで、これまでの研修をとおして得た能力を発揮 (2) 米国などで家庭医療・総合診療の研修医として活動（その国の資格試験の合格など、条件有） (3) 上海ファミリークリニックや浦南医院（中規模病院）で診療（診療可、給与有） 3. 派遣に当たり付加的研修 <ol style="list-style-type: none"> (1) 熱帯医学：コンケン大（学部間協定有）、マヒドン大学 (2) 医学教育：フリンダース大（学部間協定有）、カーディフ大（学部間協定有） <p><その他></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「アカデミックGPコース」受講可 2. 「総合診療医のためのPhDコース」受講可
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 三重大には、途上国との関連が多く、多くはその国の大学と学部間協定有。また、JICA関連団体との関連有。 2. 三重大医学生の半数は低学年から高学年まで、半数以上が海外実習（途上国が大半）に行き、少なからぬ学生が途上国の保健、医療に興味を持つので、これらの者を総合診療に誘導することができる。 3. 途上国での活動に必要な熱帯医学等の付加的研修を受けうる大学と学部間協定有 4. 途上国の医療教育や医学英語など、派遣前教育を実施するシステムが存在 5. 途上国へ派遣されても後任補充がネット内でなされるので、帰国後のポジションへの心配がない。
指導体制	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学部間協定のある海外の途上国（タンザニア、ザンビア、ガーナ、タイ、ラオス、ミャンマーなど）の大学 2. 事前に必要な付加的研修を提供できる学部間協定のある大学（コンケン大、フリンダース大、カーディフ大） 3. 三重大専任医学教育担当外国人教員。元外務省医務官の医師。

受入開始時期	平成25年本事業承認日						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	途上国派遣希望者	0	3	3	3	3	12
	その他の国への派遣希望者	0	1	1	1	1	4
	付加的研修希望者	1	1	1	1	1	5
	派遣前教育受講者	5	5	5	5	5	25
	計	6	10	10	10	10	46

地域総合診療ネットワーク

研究



総合診療医のためのPhDコース

教育・研修

卒前から卒後まで

総合診療医の育成

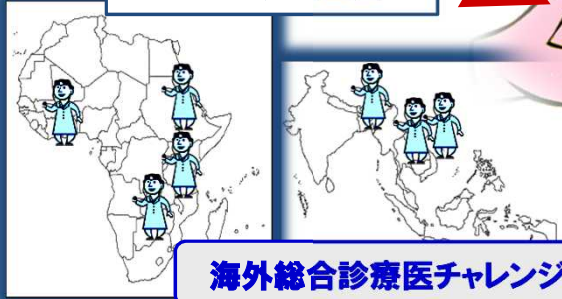
指導医の育成



アカデミックGPコース

地域での総合診療指導医養成セミナー

総合診療医を
世界の発展途上国へ



海外総合診療医チャレンジコース

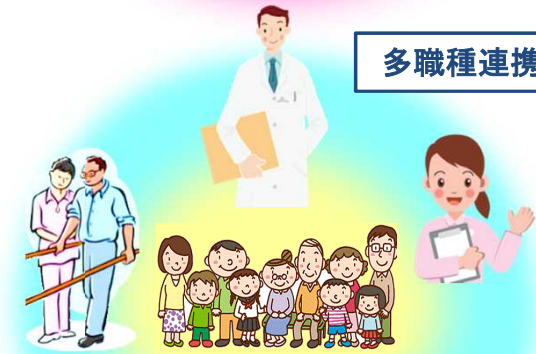
総合診療指導医・
指導医を全国へ



女性医師に対応



多職種連携



高齢者医療



在宅医療

緩和医療

保健活動



地域包括ケア



多職種協働のチーム医療プログラム